

令和 2 年 4 月 9 日現在

機関番号：33911

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05629・19K20835

研究課題名（和文）昭和期日本における民衆の中国観（対中国感情）の検討

研究課題名（英文）An Examination of Common Views on China (or Sentiments toward China) in Japan during the Showa Period

研究代表者

金山 泰志 (KANAYAMA, YASUYUKI)

同朋大学・文学部・講師（移行）

研究者番号：40827482

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、昭和期日本における民衆の中国観を、当時のメディアを史料として検討した。使用したメディアは、主に少年雑誌（『少年倶楽部』）、映画雑誌（『キネマ旬報』）、教科書（修身、国語、地理、歴史）、教育雑誌（『教育時論』）である。以上のメディアから、中国に関する言説を抽出し、中国がどのように語られ、教えられていたのかを明らかにした。

昭和期日本における主要メディアを網羅的に検討することによって、当時の一般的な中国観を浮き彫りにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今後のより良い日中関係を模索していく中で、日本と中国に関する歴史を正しく理解することは必須である。

その日中関係史を繙く際、大きな焦点となるのが日本人の中国観である。

現在の日本人の中国観については、世論調査から「好き・嫌い」「親しみがある・ない」といった感情レベルの中国観を数値として簡単に把握することができるが、戦前（昭和期）においてはそれが容易ではない。本研究の意義は、戦前（昭和期日本）における一般的な中国観の実証的把握を行ったことにある。

研究成果の概要（英文）： This study has examined how China was viewed in Japan during the Showa period, using the contemporary media of the time. The media used were mainly juvenile magazines (Sh& #333;nen Club), movie magazines (Kinema Junpo), elementary school textbooks (Discipline, Japanese Language, Geography, and History), and education magazines (Kyoiku Jiron). Highlighting and examining the discourses on China from the media mentioned above, how China was being talked about and taught have been clarified.

An extensive study of the major media articles in Japan during the Showa period has been able to show the prevailing view of China at the time.

研究分野：日本近現代史

キーワード：中国観 中国認識 昭和 日中関係 メディア 少年雑誌 映画雑誌 教育

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本近代史研究の核心とも言うべき課題は、日本の近代という時代が第二次世界大戦の終結で幕を閉じるように、「戦前の日本がいかにして戦争（日中戦争・太平洋戦争）に至ったのか」という点にある。どうしてあのような戦争の惨禍が起こったのか。その要因も問い直し続ける必要があり、それこそが歴史学が担う大きな役割である。

なぜ、戦争が起こったのか、その要因は多岐にわたるが、一つに戦前の日本社会で共有されていた支配的感情ないしは価値観の存在が考えられる。戦前日本の戦争は、当時の日本国民の総意として賛同されていたものである。そして、その理解の根幹をなしていたのが、当時の日本社会で漠然と共有されていた支配的な対外感情であり、他国・他者認識であった。

例えば、日中戦争であれば、日本民衆の中国への否定的な感情が、太平洋戦争であれば、日本民衆のアメリカへの否定的な感情が、日本の戦争への歩みを下から支持していたと考えられるのである。戦前日本の対外感情を問い直すことは、戦後70年を迎えた今日、将来の対外関係をより良くするためにも重要な課題となろう。

対外観（対外認識・対外イメージ）研究は、「西洋観」「アメリカ観」「アジア観」「朝鮮観」「アフリカ観」など、様々な研究があるが、近代日本において中国への眼差し（以下、中国観）は特別な意味を持つ。それは、近代日本の歴史は、中国との対立の歴史でもあったからである。

現在の国際情勢を鑑みても、日本と中国という隣接する二つの大国の関係性は、日中両国それぞれの平和と繁栄の維持という点だけでなく、アジアさらには国際社会全体の平和と繁栄にも大きく作用する。ここで、重要となるのが、日中間の相互理解の問題である。日本史分野からこの点に貢献できることがあるとすれば、日本側の中国理解に関する研究＝「日本の中国観研究」の提示であり、日中関係を主に日本側の視点から問い直すことにある。今後の日中関係を模索する上でも、喫緊の研究課題である。

2. 研究の目的

現在の日本人の中国観については、世論調査から「好き・嫌い」「親しみがある・ない」といった感情レベルの中国観を数値として簡単に確認が可能であるが、世論調査が行われていない戦前においてはそれが不可能である。現代に至るまでの歴史の変遷を捉えるためにも、戦前の支配的中国観の実証的把握は不可欠であり、それを可能とするのが歴史学である。

近代日本の中国観研究に関しては豊富な研究蓄積があるが、その検討の対象は徳富蘇峰や福沢諭吉などに代表される特定の個人・知識人ととどまり、日本民衆の一般的な中国観に関する実証的研究はない。これは時代を限定した昭和期日本の中国観研究においても同様の傾向である。知識人層の検討から明らかとなるのは、彼らの現実の対中政策を念頭に置いた体系的・理論的中国論・中国認識であり、現在の世論調査から読み取れるような感情レベルの中国観ではない。日本の中国侵略を下支えした日本民衆の対中国感情については、実証的な検討がなされていない。

以上の研究状況を踏まえ、本研究では「昭和期日本における民衆の中国観を、当時のメディア史料を素材に感情レベルで分析すること」を目的とする。

3. 研究の方法

近代日本における一般的な中国観をどのようにして検討するのか。

注目すべきは、近代以降に著しい発展を見せる「メディア」の存在である。ここでいうメディアとは、「人と人のあいだのコミュニケーションを媒介とする作用や実態」という広義の意味で捉えたものとなる（マスメディアに限らない）。一般的な中国観という漠然かつ広域な対象を検討する上で、不特定多数の受け手を想定しているメディアを使用することは合理的である。

昭和期に時期を絞ると、当時において広範な読者を獲得していた少年雑誌『少年倶楽部』や大衆雑誌『キング』（どちらも大日本雄弁会〔現・講談社〕発行）と、当時の娯楽の王者であった「映画」、そして戦前の日本人が受けていた「小学校教育（教科書・教育雑誌）」が、本研究で取り上げるべきメディアとなる。

以上のメディアから抽出した中国関係記事・中国関係作品・中国関係教材などから、中国がどのように扱われ、語られ、教えられていたのかを具体的に見ていく。実証的把握の難しい民衆の中国観を検討しようとする場合、その時々で最も影響力のあるメディアに着目する必要があり、それらのメディアを網羅的に検討し、各種メディアから浮かびあがる史実を総体的に捉える作業が必要不可欠となる。各種メディアで同様の扱われ方や語られ方の傾向が確認できれば、それは当時の日本社会における一般的な中国観であったと結論づけることができる。

4. 研究成果

上記の検討を通し、昭和期日本の一般的かつ感情的な中国観の実態を明らかにすることができた。その実態とは、明治時代から続く、同時代の中国に対する否定観と古典世界の中国に対する肯定観の併存である。そして、その一般的な中国観が、昭和期日本の対中政策を感情レベルで支えていたといえる。

今後の展望としては、報告者のこれまで行ってきた「明治期日本の中国観」「大正期日本の中国観」「昭和期日本の中国観」を、「近代日本の中国観」として大局的視点から捉え直したい。また、これまでの研究のノウハウの蓄積を活かし、「近代日本の朝鮮観（一般的かつ感情レベル）」の検討も行いたい。朝鮮観の検討を行うことで、日本人の中国観の特筆点を改めて浮き彫りにし

つつ、最終的には「近代日本のアジア観」として取りまとめることも可能となる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 金山泰志	4. 巻 104
2. 論文標題 昭和期の雑誌『キング』に見る日本の中国観	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同朋大学論叢	6. 最初と最後の頁 49～71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山泰志	4. 巻 45
2. 論文標題 一九三〇年代の『少年倶楽部』に見る日本の中国観	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 メディア史研究	6. 最初と最後の頁 72～91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 金山泰志
2. 発表標題 対外観研究の課題
3. 学会等名 アジア民衆史研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----